

ご挨拶

本日は、私たちコーロ・ピエーノの演奏会にご来場いただき、ありがとうございます。2020 年来のコロナ禍において、音楽活動が制限され、練習もままならない日が続きましたが、5 年ぶりに公開の演奏会を開催することができ、心躍る気持ちです。

このところ、ロシアによるウクライナ侵攻で世界は騒然としています。先の大戦から 77 年が過ぎようとする今、かつてと変わらぬ実力行使による侵略戦争が起きようとは思いませんでした。時を経ても、普遍的で理想的な政治体制を手にするところまでは、たどり着けずにいます。

ウクライナの首都キーウで、戦火のさなか、屋外でピアノを演奏する人の姿が伝えられていました。演奏を聴いた人は、おそらく気持ちが安らぎ、また平和を強く求めたはずで、音楽には人々の心に訴える普遍的な力があります。人間の本性が秘められているからこそ、昔から現代まで変わることなく、音楽が愛されているのでしょう。本日の演奏では、16 世紀から 18 世紀のフランスの宗教曲、世俗曲に込められた人々の営みを感じていただければ幸いです。

本日の演奏会は、田尻健さんをはじめ多くの方々にご協力いただき実現することができました。ここに集うすべての方々にお礼を申し上げます。コロナと戦争が収まり、世界中で数多くの演奏会が、自由に、制限なく開けるようになることを祈念します。

コーロ・ピエーノ代表 田中雅美

プログラム概説

I. フランス・バロックの聖なる響き

アンドレ・カンブラは南フランスに生まれ 17 世紀後半から 18 世紀にかけて活躍した音楽家です。生まれ故郷のエクサンプロヴァンスで音楽及び宗教について教育を受け、フランス各地の教会の要職を歴任した後、1694 年にパリのノートルダム大聖堂の楽長に就任しました。太陽王ルイ 14 世に仕えた大音楽家リュリの影響からか劇音楽にも力を発揮し、「優雅なヨーロッパ」をはじめとする華やかなオペラ・バレエの作曲に精を出しました。そのことが原因で 1700 年にノートルダムの楽長の地位を失ったとの説もあります。

今回演奏するミサ「大いなる神の栄光に」はその前年 1699 年に出版された作品で、この題名はイエズス会のモットーであることから、イエズス会のために書かれたと考えられてきましたが、その質素な無伴奏のポリフォニー様式から見て、ノートルダム大聖堂の典礼のために作曲されたと思われます。当時、ミサ通常文は単旋律、または伝統的なポリフォニーで歌われていました。イタリア風のポリフォニー書法に拠りつつ随所に当時のフランスのエスプリを感じさせる佳作です。

一方、ミサ通常唱の合間及び最後に歌うモテットの作曲家アンリ・デュ・モンは 17 世紀半ばに活躍した音楽家で、ヴェルサイユの王室礼拝堂の副楽長としても働きました。終曲の「主よ、王を救いたまえ」はフランス国家教会主義(ガリカニスム)を象徴するモテットであり、王を讃える内容から当時の作曲家は、こぞって作曲しました。

本日のステージでは合唱にテオルボの通奏低音を付けるとともに、同じくヴェルサイユ宮に仕えたロベール・ド・ヴィゼーの独奏曲もはさんで演奏いたします。

II. ルネサンスの華 シャンソン

シャンソンといえまず思い出されるのはエディット・ピアフ「愛の讃歌」でしょうか？ フランス語で「歌」を意味するシャンソンの歴史を紐解けば中世の吟遊詩人まで遡り、時代時代によってさまざまな形のシャンソンを聴くことができます。

そのなかで本日取り上げるのは 16 世紀前半、フランソワ 1 世の治世に流行した多声世俗曲です。折しも活版印刷による楽譜出版が盛んになり始めた頃、パリのアテニャンという業者が宮廷好みのシャンソンを次から次へと出版しました。その代表的な作曲家はパリ派と呼ばれるセルミジ、ジャヌカンらです。テキストとなった詩は格調高いものもありましたが、その多くは男女の色恋を扱ったもので、ポルノまがいの開けっ広げな内容もしばしば含まれていました。シンプルで親しみやすいメロディーに乗せて、人間の本質を捉えた自由奔放な愛が歌われました。

描写的な標題シャンソンが作られたことも特徴で、ジャヌカンの「鳥の歌」は代表的な作品です。曲中に登場するいろいろな鳥の中にはカッコウも。その鳴き声“coqu [kɔky]”の意味するところは何と寝取られ亭主！ 自然の描写のなかに男女の生き様もちゃっかり歌われているのです。

本日は宮廷で流行っていた舞曲を含め、古楽器の演奏も織り交ぜながら華やかなルネサンス・シャンソンの世界に誘いたいと思います。

コーロ・ピエーノ指揮者 村山 暁

Program



Au joli jeu
楽しい遊び

Clément Janequin(1485頃-1558)
クレマン・ジャヌカン

†

フランス・バロックの聖なる響き

Missa “Ad majorem Dei gloriam”
ミサ「大いなる神の栄光に」より*

André Campra(1660-1744)
アンドレ・カンブラ

Kyrie あわれみの賛歌*
Gloria 栄光の賛歌*

Ouverture de la grotte de Versailles /
Entrée d’Apollon
序曲「ヴェルサイユの洞窟」/アポロの入場
〈テオルボ独奏〉

Jean-Baptiste Lully (1632-1687)
ジャン=バティスト・リュリ
Robert de Visée (1650頃-1725)
ロベール・ド・ヴィゼー編曲

Sanctus 感謝の賛歌*

Panis angelicus
天使のパン

Henry Du Mont(1610-1684)
アンリ・デュ・モン

Agnus Dei 平和の賛歌*

Domine salvum fac Regem
主よ 王を救いたまえ

Henry Du Mont
アンリ・デュ・モン

†

ルネサンスの華 シャンソン

Tant que vivrai
花咲く日々に

Claudin de Sermisy(1490 頃 - 1562)
クロードン・ド・セルミジ

Il est bel et bon
うちの亭主はお人好し

Pierre Passereau(1509-1547)
ピエール・パスロー

Conte Clare
コント・クラール 〈ルネサンスギター独奏〉

Guillaume Morlaye(1510 頃-1558 頃)
ギョーム・モルレー

Belle qui tiens ma vie
わが命の想い人

éd. Arbeau(16 世紀)
アルボー「オルケソグラフィ」より

Tourdion
トゥルディオ

éd. Attaignant(16 世紀)
アテニャン舞曲集より

Douce mémoire
甘き思い出

Pierre Sandrin(1490 頃 -1561 以降)
ピエール・サンドラン

Recercada sobre Douce memoire
「甘き思い出」によるレセルカーダ

Diego Ortiz(1510 頃 -1570 頃)
ディエゴ・オルティス

〈リコーダー&リュート〉

Le chant des oiseaux
鳥の歌

Clément Janequin
クレマン・ジャヌカン

J’ai le rebours
恋のなやみ

Pierre Certon(- 1572)
ピエール・セルトン

Ce mois de mai
この五月に

Clément Janequin
クレマン・ジャヌカン

